

第14回 宇和島市立伊達博物館建替委員会 会議録

- 日 時 令和4年7月4日(月) 14:00~16:00
- 場 所 総合体育館 2階 会議室
- 出席者 [宇和島市立伊達博物館建替委員会委員(順不同、敬称略)]
木村宗慎、廣瀬孝子、二宮信彦、宮本直明、宮部雅輝、
牧野勲、森田松次
〔株式会社隈研吾建築都市設計事務所〕
〔株式会社丹青社関西支店〕
〔事務局〕
教育部長
文化・スポーツ課長
伊達博物館(館長、課長補佐、係長、主事)
- 欠席者 有馬義恒、二宮一之、三好めぐみ
- 議 事 (1) 新伊達博物館建築基本設計(案)について
【建築設計】
株式会社隈研吾建築都市設計事務所
(2) 新伊達博物館展示基本設計(案)について
【展示設計】
株式会社丹青社関西支店
(3) 概算工事費
(4) その他

次 第

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 議事
(1) 新伊達博物館建築基本設計(案)について

【建築設計】

株式会社隈研吾建築都市設計事務所

(2) 新伊達博物館展示基本設計（案）について

【展示設計】

株式会社丹青社関西支店

(3) 概算工事費

(4) その他

4 閉会

■会議の記録

1 開 会

(事務局による司会進行)

ただいまから、第 14 回建替委員会を開催いたします。

本日の出席委員、10 名中 7 名、過半数を超え、会議が成立していることをご報告させていただきます。それでは、委員長の木村宗慎氏よりご挨拶をお願いいたします。

委員長

(委員長挨拶)

会を重ねて 14 回目の委員会ですが、基本設計案がまとまったことについて、

まずはこの間の隈研吾都市設計事務所の皆さん、そして丹青社の皆さん、あわせて宇和島市役所の理事者、それから担当者の方々のこの間のご尽力に委員会として敬意を称したいと思います。大変お疲れ様でございました。それぞれの委員さんも具体的な基本設計案について楽しみにしているかと思われまので、説明をよろしく願います。

2 委員の紹介

事務局

それでは今回、人事異動等により新任となった委員 2 名につきまして、ご紹介いたします。

各委員

(自己紹介)

3 議 事

(1) 新伊達博物館建築基本設計 (案) について

委員長

- ・議事に移りまして、新伊達博物館建築基本設計 (案) についてご説明いただけますでしょうか。では、建築設計につきまして、株式会社隈研吾建築都市設計事務所様よりご説明お願いいたします。

・こちらのプロジェクターに写ったものに基づいて説明させていただきます。まず最初のページが上から写した所でございます。まちに開かれた、居心地のよい博物館にいたします。皆さんが集い、コミュニケーションをとる場所を目指して作ります。天赦園、博物館、天赦広場、偕楽園、それから、新たに計画される児童公園、これらの関係性がわかるようになっております。天赦園から宇和島城、これが非常に歴史的な重要な軸線だというふうに我々は考えまして、それを重視して、博物館を北西側、そちらにコンパクトにまとめてこの天赦園から宇和島城を望む視線で計画されています。それによって、天赦広場と呼ばれる大きな広場が南東側にできます。その南東側の広場から偕楽園さらに児童公園というふうに公園が繋がっていく大きな緑のネットワークができます。敷地には、多くの場所から入ることができ、市民に開かれた計画とします。この黄色い矢印がアプローチ。いろんなところから敷地に入ることができるということを示しております。天赦広場には回遊動線、この赤で示したものが回遊動線でして様々な利用に配慮するとともに、広場から天赦園に直接アクセスできるようにもいたします。駐車場から博物館エントランスまでは、アクセスの際に雨に濡れない計画といたします。ちょうど今、左上に書いている動線、これは雨に濡れないように駐車場から博物館に入れるようになっております。バリアフリーとそれから雨に濡れないということを重視しての計画です。また博物館に駐輪場を配置しまして、広い世代がアクセスしやすい計画といたします。今自転車が、SDGs等で非常に注目されている交通手段で、それに関しても配慮した計画になっております。車の動線から基本的にはワンウェイにしまして、安全、それから交通状況に配慮した計画

というものにしております。渋滞が周りに影響を与えないようにという計画になっています。それから右下には、バス利用の話が出ております。敷地の東側にはバスの駐車場を設けてございます。この右側のちょうどオレンジ色で書いたところです。バス利用者にもアクセスしやすいということを目指した計画になっております。駐車場から建物入口までは、西側から約 66m。元の博物館駐車場からは 113m。という距離になっています。天赦広場は、面積が 6,754 m²で、ウォーキングコース内の芝生の面積で、3,324 m²の面積が取られております。右側へいきまして、旧博物館の跡地、計画されることとなります児童公園が 2,810 m²、足しますと大きな緑のネットワークが生まれるような計画になっております。駐車場の台数は、建物の西側に 13 台、建物下に、いわゆるピロティのところに 6 台、一般車両 4 台、身障者車両 2 台で計 6 台になっております。それから、現博物館側、こちらが 31 台になっております。それで合計でこれで 50 台の台数が取られるようになっております。駐輪場の台数は 40 台でございます。大事なのが、津波対策、大規模地震対策でございます。津波で浸水した場合でも、収蔵部への影響、収蔵品に影響が出ないように、収蔵庫を 2 階に設置しています。この緑で囲った部分です。そこで収蔵品を守り、美術品をしっかりと守るプラン、また、2 階に空調関係の機械設備を設置することで全部復旧後にいち早く収蔵環境を整えることができるような設備計画になっております。この断面で駐車場から収蔵庫の床レベル、それが現況地盤から 5.8m 上がっておりまして、浸水レベルがその下に、ブルーで示したレベルなんですけど、浸水の危険レベルよりも上に床の高さを設定しております。国道の地盤面に合わせて 80 cm の盛り土を行って、この高さを確保し

ております。これが天赦広場から建物を見たところであり
ます。今計画してるのは、入母屋の屋根が連なったヒューマン
スケールな公園に取り込むような計画です。自然に馴染んで
伊達文化を表現するような計画となっています。軒は低く抑
えて、その低い軒が雁行しながら連続する。その雁行屋根は
日本建築の基本的な意匠の一つです。それによって、広場と
建築とがより繋がり、ヒューマンスケールなやさしい景観を
作ります。それから、藤棚というのは、伊達家にも非常に縁
のある植物ですがその藤棚をですね、建物の東側、これ右側
に藤棚が繋がってきて、それが周囲の緑と、建物を一つに結
びつけるような役割を果たしております。右側に藤棚カフェ
って書いてあるところがございまして、藤棚の下がカフェ、
ガラス張りのカフェになって、広場とそのカフェが連動する
ような作り方になっています。屋根は、フッ素樹脂加工で、
一番耐久性の高い、屋根の形状は入母屋にしております。
博物館の中に入って、ホワイエがあります。機能的でありな
がらも、地場の素材を生かして、地域を象徴するようなエン
トランスホールになっております。天井の意匠は、藤棚、先
ほどの外の藤棚が連続するようになっておりまして、藤棚の
カフェ、それから、トイレ、それから中の天井が一続きに感
じられるようになっています。材料としては南予材をはじめ
とする様々な地域素材の検討を進めているところでして、宇
和島藩の藩造林、これも歴史があり、やはり伊達家が有名で
すけど、それから泉貨紙、これも地域に伝わる非常にユニーク
な和紙、2枚の和紙を挟み込むという技術ですが、その和
紙です。そういった伊達家ゆかりの素材というもので全体に
伊達博物館らしいデザイン、それから、優しく暖かいデザ
イン。同時に、SDGsという現在の課題にも対応できるよ

うなデザインというのを考えております。床に関しても南予材のこれは圧密加工、圧力をかけて堅い靴で歩いても、傷がつかないようなフローリングです。それから、受付のカウンターこちらも南予材、壁面は、右側の壁面ですが、それは無機材の左官仕上げを考えています。そういうことで全体の素材の調和を図っております。これが敷地の利用の計画です。北側、道路に面して、カフェ・トイレ等の整備が行われるエリアが、赤く示してございます。それから南側、遊具の移設になっております。工事開始から児童公園の整備までできるだけ広場の利用を妨げないような計画というものを今考えております。この部分は既存トイレの解体、令和5年の12月ごろ、既存トイレの解体が行われる予定です。工事開始から児童公園の整備までなるべく広場を使っていたくという計画になっております。その次に令和6年から令和9年春、これが博物館、メインとなる建物とそれからパーゴラ整備の計画でございます。令和9年の春にオープンの予定をしております。その次に令和9年以降、こちらに現博物館の解体、それから児童公園の整備が行われるような計画でございます。そういうステップバイステップで計画を順次進行して市民の皆さんの利用をなるべく妨げない計画になってございます。これが1階の平面図です。右側に道路側、東側にあるのが、カフェとそれから公園トイレでございます。それから博物館の方では、1階の部分は、雁行型のプランになっておりまして、いろんな目的に使われる研修室がまず右に飛び出した形になっておりまして、その下にエントランスホール、さらにその下に常設展示室、それから、ベースから西側からの搬入、それから裏方関係が、駐車場等連続した形で設けられておりまして、搬入動線も、スムーズに安全にとれるようにな

ってございます。2階のプランは先ほど言いました、G Lレベルからプラス5.8mというところに床を設定して、津波の心配のない高さ、その部分に企画展示室、一番大事な、伊達博物館の宝物を保管する収蔵庫、そういう大事な機能を持つのがこの2階のスペースです。そこからテラス、先ほどの研修室の屋上がテラスになっておりまして、このテラスに出るとそのテラスから宇和島城がよく見えるという、そういうふうな関係の場所に、非常に景色のいい場所に、テラスを設けております。その中身を断面で示したのがこちらでございます。これは南側の方の広場から見たところでございます。ブルーのものはガラスになっておりまして広場と連続してそこに深い庇を出して、庇によって陰を作って、省エネルギー対策SDGs対策というものもとれるようになっております。これが、東の立面図、東側から図面では右側から見たところでありまして、先ほどの宇和島城を望むテラス、それから繋がって藤棚になるわけですが、それがわかるように書いてございます。これが西側、いわゆる搬入サイドからの図面でございます。こちらをしっかりと閉じて守るというふうな、建物の形を示しています。屋根の勾配もですね入母屋なんですけど、ゆったりとした伊達の文化を象徴するように、やわらかくなっております。これが道路側からの立面でございます。藤棚がこの低層部、左側の低層部、ずっと連なって、少しずつ高くなって最終的に建物の方に連続するというふうな、建物をひとつなぎに藤棚がつなぐという構成になってございます。これが断面関係、非常に天井が高く突き抜けていて、その吹き抜けの部分に、外からの藤棚のデザインが入ってきます。ピンクの部分が企画展示室になっておりまして、下のブルーの部分が常設展示室になっておりまして、左側のグレー

の部分が空調関係になっております。これは、断面をタテギリに切ったところでございます。これは2階の部分と1階の常設展示の関係がわかるようになっている断面図でございます。以上でございます。どうもありがとうございます。

委員長

・ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、各委員さんから、何か特にご質問ございますか。それとも、通して展示設計の方もお聞きして、後からということにさせていただきますか。では、続いて新伊達博物館展示基本設計（案）について、株式会社丹青社の皆様からお願いいたします。

丹青社

・それでは展示の中身について、私の方でご説明いたします。表紙の方をめくっていただいて、まずは実施方針と期待される効果です。まず誇りに思い、自慢したくなる宇和島リテラシーを育む歴史文化観光拠点を創出いたします。そのために四つ掲げます。一つ目、文化財を守り伝える。二つ目、対象は宇和島全域であること。三つ目、普段使い、憩いの場であること。そして四つ目、市民みんなの活動体とすることです。これらを踏まえて、宇和島市の活性化の知恵袋として、地域振興、ブランド力向上に寄与します。次です。施設構成。公開承認施設水準に基づき、資料動線と利用者動線を明確に区分、利用者が気軽に入りやすい展示空間としまして、普段利用できる施設を目指します。下の図のオレンジの矢印が、資料動線。それから青の矢印が、利用者動線です。このように明確に区分しまして、役割を整理して参ります。次です。1番目に、展示の役割と流れ、展示の冒頭で、気持ちを引込んで、興味を強く持つことによって、そのあとに続く展示、歴史文化に興味を一層深めてもらいます。紙面下部の右

側。エントランスですが、普段使いで気軽に親しむ。そして2番目に興味を持ってもらうきっかけを提供いたします。常設展示に参りまして3番目、歴史文化を詳しく知ってもらい、興味を深めてもらう。4番目、気持ちを引き込む。興味を強く持っていただきます。そして2階に上がって企画展示室では、5番目、本物の魅力に触れて、興味をより深めてもらう。最後エントランスに戻って、6番目、町への愛着を深めて送り出す、7番目、情報を終えて最後フィールドへ行く気持ちを高めてもらう。宇和島市内全域や四国西南地域へいざなうような形といたします。次です。展示の中身の全体像です。1階の参加体験型コンテンツで、親しみ。2階の本物の魅力で深めます。展示の機能としましては、紙面にございます通り三つ大きく主にあります。右下のエントランスホールからです、最初に顔出すのか、興味を持ってもらう、「うわ！じまん」というコーナー、さらに行きまして、歴史を深める常設展示室、「先人ロード」です。2階に上がっていただいて、本物の魅力を提案。企画展示室で構成しております。次です。1階常設展示の基本的な考え方となります。あと市民が気軽に利用するために、訪れる人々に寄り添った展示空間を目指します。そのために大きく三つ掲げます。一つ目は入りやすいこと。明るく開放的で、何があるのか。入ってみたいと感じさせる展示空間といたします。二つ目は、滞在しやすいことです。座ることができたり、テーブルがあったり、そういった市民がちょっとした勉強や本を読む事ができる形といたします。三つ目、わかりやすく使いやすい展示といたします。わかりやすい内容から、深く入るところもある展示を目指します。また、ハンズオンとして、触れたり、体験ができる事で、よりわかりやすさを強調して参ります。次です。こちら

が先ほどの平面に落としたゾーニングになります。この紙面の中央、エントランスから入っていただいて、一番手前の「うわ！じまん」へさらに多くの「先人ロード」を経て、2階に上がっていきます。2階から降りてまた宇和島へ送り出すような構成です。次です。1階の展示構成になります。市民が気軽に利用できるとともに、そこから宇和島の歴史文化に興味を持って、深めるような形といたします。こちら右側よりエントランスホールに入っていただいた後、宇和島の魅力展示、先ほどの「うわ！じまん」、ここは大きく三つの機能で整備します。迎える機能、多世代で交流できる機能、送り出す機能です。そのあと、左側、常設展示が広がります。時間軸としまして、宇和島の歴史文化を人から読み解く「先人ロード」という名称で整備していきます。展示の主要な項目としましては、宇和島の先人年表それから宇和島全市、宇和島藩の成立。それから宇和島城改修と吉田藩の成立。7代宗紀公、8代宗城公になり幕末近代の宇和島へと展開いたします。このような全体の軸で展示の道を作って参ります。次です。子どもから大人まで、市民が参加しまして、宇和島の魅力を語ります。概要としましては、市民みずからが広報できる参加性や、武器や武具をさわる等の体験性を持たせます。それから四季折々の様々な催しを開催しまして、来館者の皆様が、いつ来ても楽しめるコーナーといたします。先ほど申し上げた通りここでは大きく三つの機能を、迎える機能、多世代で交流できる機能、外へ送り出す機能、この三つです。右上の図になります。この赤枠にコーナーを設けます。例えば、市民が持ち寄った自慢の品を展示したり、撮影ができるスポットを設ける。それから、地域の見どころスポットの観光案内機能を設けて、構成して参ります。続いて常設展示となります

「先人ロード」歴史を駆け抜けた先人たちを通して、宇和島が辿った道を知る。近世近代を中心に、南海の雄藩として存在し、歴史を動かした先人たちの活躍と痕跡をたどることによって、すぐれた人を育み、すぐれた人から愛された宇和島の魅力を知ります。また旧宇和島藩及び旧吉田藩を展示の対象といたします。展示の要素、内容としまして五つのエリアで構成いたします。右の、図の赤枠、こちらが冒頭部分です。1番として、宇和島先人年表です。ここは先人を視点に、宇和島の歴史を紹介いたします。次に、2番の通史展示となります。宇和島の先人たちです。宇和島全市、初代秀宗公入部以降、時系列で紹介して参ります。主な「先人ロード」の壁の構成です。壁面で概要をまずは説明しまして、その下の展示台、天板面の解説引き出しをあげることで、より情報を深掘りできる。情報レイヤーを設定いたします。図の右側の、壁の上部では、主要なエピソード。壁面では時代、関連人物、出来事、言葉、什器の天板面では、解説関連エピソード。そして引き出しの棚では詳細情報を展開する。この四つの構成で歴史をひもといて参ります。最後に、「先人ロード」の右の図の赤枠部分になります。こちらに大型映像を設けまして、幕末維新期の先人たちをテーマに、映像を構成いたします。日本の歴史の転換点に、この地が、先人たちが深く関わったことを知ってもらって、感謝の気持ちをここで強く引込んでいくようにいたします。常設展示の中央部では、トピック展示ということで、現在に伝わる、城をはじめとする景観や町並み、文化、伝統行事。民俗芸能等が歴史と紐づいていることを紹介いたします。次です。ちょうど入口でもあって出口でもある位置に設けます。次に、5番の宇和島時層地図です。右下がイメージになります。江戸時代の城下町絵図か

ら、現代の地図を重ね合わせまして、それが見られるようにする工夫をいたします。あと写真を表示できるとともに、現在の写真を投稿できるようにして、対話が生まれるような促し方を検討いたします。続きまして、二階です企画展示室の基本的な考え方。文化財の魅力や情報を余すことなく見せる本物の展示空間を目指します。そのために大きく三つ掲げます。一つ目基本的な指針としまして、宇和島市全域の歴史文化を扱って参ります。二つ目、被災、震災を考慮。こちらはリスクを最大限回復する考え方として、例えば停電によって資料の救助という観点を踏まえて、人の手で出し入れが可能とするケースの整備等を踏まえます。三つ目、可変性に富む、企画展のテーマや規模、資料の性質によって、面積やレイアウトを変えられる、汎用性の高い空間構成。更新制を大切にいたします。こちらが企画展示室の平面プランになります。企画展のテーマによって、レイアウト変更が容易な汎用性の高い空間構成といたします。ちょうど展示室をぐるりと壁面ケース、大型ケースで構成いたしまして、現在基本設計としましては、壁面ケースの長さとして46.83m確保しております。それから中央部に、覗きケース、ハイケース、行灯ケース等々整備いたしまして、さらには自立式の可動間仕切り、こちらも、豊かな企画展の構成を実現して参ります。最後となりますが、キッズスペースです。こちらは小さな頃から宇和島の歴史文化に親しめる構成といたします。親子で遊べる宇和島の歴史文化にちなんだ遊具、かんきつ類や、例えば真珠それから宇和島の特産品や、踊りや、牛鬼、お練り、宇和島の民芸民俗芸能、といったプログラムを想定しまして、小さな頃から宇和島の歴史文化に親しめるような形といたします。最後です。工程となります。令和8年度中のオー

ブンを目指します。展示の行程としましては、設計については、建築設計と足並みをそろえて、推進して参ります。建築の工事期間に展示のコンテンツ、中身の製作、それから工事というのを製作期間ととらえまして、建築竣工後、展示の現場施工を設置という流れとなります。令和8年度中のオープンを目指していくという考え方です。

委員長

・ありがとうございました。建築も展示もそれから、様々なプレゼン、さらに具体的に肉づけをしていただいて、より夢を持てる、また現状の伊達博物館が抱えている様々な問題点とか改善の内容を十分にご検討いただいたプランにさせていただいてるんじゃないかなと思って拝見拝読拝聴いたしました。ご説明、質問は後にまわさせていただきます、とにかく予算、このお金の話も含めて、説明をこのまま続けたほうがいいんじゃないかなと考えます。お願いします。

事務局

・カラーの横向きの表をご覧ください。概算工事費等について、事務局よりご説明を申し上げます。基本計画の時に、概算でお出ししてる合計が36億円ということでご案内したかと思えます。隣の数字が税込をした額でございます。合計で39億6,000万円、約40億円とっていたのが、この金額かというふうに思えます。今回、概算工事費を入れまして、設計費、一番上の設計費とございます。合計で、2億5,151万3,000円、という小計がございます。こちらは契約が完了しました金額になります。次に、工事費、建築工事費についてご説明申し上げます。基本計画の時は税抜きの工事費31億円のうち、展示工事費を除いた建築工事費としまして、25億9,000万円、税込みは隣の28億4,900万円を予定をしております。今回の基本設計の概算費が、税込みの35億1,670

万円となっております。その後、CMを含めまして、減額検討いたしました結果が、2億7,280万円削減いたしまして税込みの32億4,390万円というふうになります。この金額で、基本計画時の28億4,900万円に対しまして、3億9,490万円の増加となっております。その主な要因としては、二つあります、一つ目は、社会情勢の影響を受けた急激な物価上昇でございます。建設物価調査会の数値によりますと、基本計画時から現在の物価上昇率は10.17%ということになっております。基本設計金額に10.17%を掛けますと、税込みで、2億8,970万円となります。二つ目は、設計業務が始まって、公開承認施設の承認等へ文化庁と協議で必要になった機能、収蔵品調査の結果により必要な収蔵庫のサイズの拡大、公共施設への設置が求められている太陽光発電設備など、税込み1億2,100万円となっております。二つの増額も単純に計算しますと、4億1,070万円になりますが、減額検討後の金額はそれ以下の増額幅ということになっております。続きまして、展示設計についてです。展示設計は、基本計画時、税抜き5億1,000万円、税込みの5億6,100万円を予定しておりました。減額検討前でございます基本設計概算費は税込みで7億4,800万円となっております。その後、CMも含めまして減額の検討した結果が、1億3,200万円減の概算になります6億1,600万円というふうになっております。その金額で、基本計画時の5億6,100万円に対しまして、5,500万円の増額になっております。増額要因といたしましては、建築設計と同じく、急激な物価上昇、二つ目は収蔵庫に入れる宝物量などを調査した結果、収蔵庫の広さが当初より広がったことを受けまして、9,680万円の増加がありました。CM業者等との協議によりまして、ケースの再利

用、リニューアル等を、検討をいたし見直した結果、現在のところ、6億1,600万円というふうになっております。その合計で、市の方で掴んでおります全体事業費というのは、この基本計画時に出した、36億円、税込みの39億6,000万円に対しまして、44億2,799万3,000円ということで現在のところ金額をつかんでおります。概算については以上です。よろしく願いいたします。

委員長

・ありがとうございました。事務局に以前お伺いしていたときは、事業費の増加もやむなしとのお話も出ておりましたが、いろんな意味で、業者さん含めて、ご尽力いただいて、大体この物価上昇率、非常に合理的な金額の振れ幅に納めていただいて、つきましては隈事務所さんも、丹青社さんもそれぞれ、また事務局の方も含めて大変なご努力があったんじゃないかと思いますが、ご苦労様でした。以上ですが、どうでしょう各委員の方々、それぞれ何かみなさんにご質問、ご確認がございますでしょうか。

B委員

・展示の方でちょっとお話を、私も、よそから来られた、いろんな先生方を連れてくる事があるんですが、観光都市宇和島とすると、伊達博と天赦園に行って、昼から愛南、南楽園というパターンが多いんですけど、今回こんなに素晴らしいのができるんだったら、それぞれの展示品に、最低限、音声ガイドスってのがあるんですか。ちょっとそこら辺を聞きたいですね。

丹青社

・音声ガイドスについては、必要があると思うので、何らかの形で、今後検討して参ります。

B委員

・ありがとうございます。今の博物館の展示を見たら、まあ30分ぐらいで終わっちゃうんですけど、展示品がもっとあるんですけども、光の関係で、褪せるから、展示品はそんなに出

- せないんだと言われたんですけど、展示品の数は新しい博物館で、どのくらい増えるんですか
- 委員長
- ・質問もあったように、展示動線含めて、皆危惧してるところだと思うんですが、先ほど、10メートルほど壁面ケースの場合はマイナスということにもなっていました。
 - ・事務局お尋ねしますけれども、現在大体、通算で、展示品、展覧会・常設・特別展含めて、何点ぐらいの展示点数の展示が中心ですか。
- 事務局
- ・展示のサイズによって違うので、展示のものの大きさだとか、おそらく、吊り物とかにもよって、正確にはお伝えはしづらいところはあるんですけども、70点から100点くらい。
 - ・展示によって何点出ているかは確認して、報告いたします。
- 委員長
- ・少し具体的な数字とか、実情を踏まえた内容を、しっかりヒアリングさせていただきたいなと思っていた点でもあるので、一度学芸の方にもお尋ねいただいて、今回の展示室、丹青社さんをご説明いただいたように、展示スペースは10メートル少なくなるにしても、可動式のケースで対応したり、中に可動の間仕切りを入れたりしながら、展示動線が極端に短くなったり、点数が減らないようなご配慮は十分いただいているように思ったんですが、その辺りのことをもう少し、数字を含めて、次回ご説明いただけるように、ご準備いただけますか。
- 事務局
- ・はい。
- 委員長
- ・現時点でのB委員含めたご指摘は、展示の点数が現状でも30分で終わるので、そういったものが減らないようにっていうことは考えられているのかとか、導線についての、ある程度

のプランも含めて、ご指摘に対する回答を次回ちょうだいするということによろしいでしょうか。

B 委員

・それともう一つ、どれだけ信憑性があるかわからないんですけど。宇和島によりたいんだけど、大型バスを止めれるところはないから、宇和島は素通りして帰っちゃうんだという噂があります。今度児童公園も含めてですね。やっぱり止まるバスがですね、少なくとも5台から10台必要ではないか。今回はどうなっているのか、ちょっとそこらは私初めてなんで（委員会に初出席）、ちょっと教えてもらったと思うんですけど。大型バスを止める場所は何台ぐらい止めれるかいうのを知りたいんです。

委員長

・それも、次回お答えしても大丈夫ですけど。今お答えいただきますか

事務局

・今答えれる範囲でお答え差し上げますけれども、残念ながらその大型バスをですね、5台も10台も止めるような余裕のスペースはございません。従いまして、じゃあどうするかというと、敷地のところでは乗り降りですね、乗降を場所を特定をさせていただいて、そこで乗り降り頂いた後に、その間バスは、どこかで待機をいただく形になっていくんじゃないかというふうに考えてます。基本的には、例えば「きさいや広場」でありますとか、別の場所でご待機いただいてまた迎えに来ていただくというような運用に、現段階では、考えざるをえないのかなというふうに思っています。これについては先ほど委員長からいただいたように、最終決定という話ではございませんので、効率的な運用があるならば、そこは、きちんとしていきたいと思っておりますけれども、現段階ではそういった段階です。

- B 委員
- ・ 児童公園につくるという計画はないですか、児童公園って、この今の場所でしょうか。児童公園にする場所を、駐車場に、大型バスの駐車場に変更するという考え方は今のところない。
- 事務局
- ・ 我々の答えとしては、決して児童公園がなくなるのではなくて、今の博物館の跡地に児童公園を代替公園として整備をしますということでお答えをしてきた経緯もございますので、今のアイデアとしては承りますけど、ちょっと現実的ではないのかもしれない。
- B 委員
- ・ 「きさいや広場」から来てって言うのと、そこで早く来た人は暑いときバスにクーラーが出るから、乗っってもいいよというのは、全然違うんですよ、感覚が。観光客としては。だから、できれば3台ぐらいでもいいから。
- 事務局
- ・ はい。
- B 委員
- ・ 少し大型バスの駐車場があつたらいいなっていうのが、まあ私の意見といたしますか。
- 委員長
- ・ B 委員のご指摘はごもっともです。ただ京都ですとか、金沢とかのよりコアな歴史文化施設の多い都市部でも、例えば観光バスは二条城のそばにある駐車場に集約的に駐車させて、乗り降りできるところへその時間にバスを入れて次の移動先へ向かうということはあると思うんですけど、そのこと以上にご心配いただいているのは、観光客の方にとってより利便性が高くて、そういうことに対する配慮とケアがちゃんとあることを想定して欲しいというのが一番かと思います。その辺りはまた事務局がおっしゃったような「きさいや広場」に、仮にですよ、止めるにしても、バスの情報を含めたケアがこういうふう考えられてるということ、もう少し、次回ご

説明いただけるようにご準備いただけたらと思います。ありがとうございました。他の委員の方から何かご質問ございませんか。各委員の方からも何かいただけたらと思いますが、どうでしょうか。質問ございませんか。では今日のところは、とにかくこれだけご丁寧なプレゼンテーションをちょうだいしましたので、各委員さんなどから個別のご質問などをお寄せいただければよいということでもよろしいでしょうか。問題ございませんか。

- 委員長
- ・せっかくなので、バスを降りてから新伊達博物館に雨に濡れずに計画してくれとかいう事は可能ですか。
- 隈事務所
- ・多少は雨に濡れるかもしれませんが、できると思います。
- B 委員
- ・一般車両の駐車場に、大型バスを止める事はできないのか。
- 委員長
- ・それは難しいんじゃないですかね。
- B 委員
- ・ご検討ください。
- 事務局
- ・公園利用者の駐車場でもありますので、博物館専用っていうふうにはなかなかいかないのでは。
- 委員長
- ・こっちから見ても藤棚がざーとつながってだんだんになっていてカッコいいですね。
- 隈事務所
- ・こちらの藤棚テラスの方なんですけど、カフェとして整備すれば20~30人は、余裕で入ります。
- B 委員
- ・すごいね。
- 隈事務所
- ・その上で外にテラス席みたいに利用できるかと。
- 委員長
- ・そうですね。
- 隈事務所
- ・公園と一体となった形で、芝生の前に席を作るとか。
- 委員長
- ・他の人にも貸し出して、町の若い人との結婚式とか、ちょっとしたパーティーとかにも使ってもらえればいいですね。

- B 委員
委員長
- ・やっぱり憩いの場所になるといい。
 - ・真ん中になんか児童公園の遊具をつけろとかいう声が出てきたりしませんか。
- 隈事務所
委員長
- ・整備途中には、この辺に全部配置します。
 - ・整備途中にここに置いたら、この真ん中に遊具があるのが素晴らしいとかいう声が盛り上がり、ここ永久的に児童公園化しろっていう声が出たりして、大丈夫ですか。
- 事務局
- ・そのために児童公園を設置しますから。
- B 委員
隈事務所
委員長
- ・ここはもう今のところ芝生だけですか。
 - ・はい今のところ芝生ですね。
 - ・あとは行政に働きかけてもらって東高の校舎を壊して、建て直してくれれば。
- 事務局
- ・景観につきましては、東高の立木の剪定等は学校側と協議してまいります。
- 委員長
事務局
委員長
- ・やがて建て替えの話とかが出たときに。
 - ・そうですね。
 - ・ご配慮いただけるといいですね。
 - ・建物の周りをぐるっと回れるとかの何か工夫がありますか。
- 隈事務所
- ・回れるんですけど、ちょっと駐車場とかになってしまうので。
- 委員長
隈事務所
- ・そういうことですね。
 - ・我々も展示エリアの前で、何かその屋外展示みたいのができればと考えています。内から外にでれるような形で連続したものにするとか。
 - ・公園から入って来た方々に休憩できるスペースを設けたりとか、そういった形で、ちゃんと広場的に使えたらいいなと。

- 委員長
- ・屋外展示できる伊達博物館と親和性のある展示はありますか。石垣とかじゃなくて、屋外展示に持ちこたえられる何か。
 - ・ここに突然、モダンコンテンポラリーアートオブジェではないんでしょうけど。
- 隈事務所
- ・具体的なお話でいうと、牛鬼とかが置いてあっても良いんでしょうけど。
- 委員長
- ・外にね。余談ですけど、ロビーエントランスに、牛鬼置きっ放しにして、もう果てしなくそれが置いてあるとか、それはご勘弁ください。それは、お願いしますよ。
- C委員
- ・回ってきてもらって、子どもらに八鹿踊りを踊ってもらおうとか。
- 委員長
- ・そうですね、宇和島さんさとかもね。
- B委員
- ・一番は、書籍を販売してほしいです。宇和島のこの伊達の書籍がいっぱいあるじゃないですか、いろんな人が書いた。あれを販売してもらいたいんですよ。
- 委員長
- ・売店ですね。
- B委員
- ・幕末のものがいっぱいあるんですね。本とか、伊達に関するものが。和霊神社のことでも構わんけど、いろんな本があるから、それを販売する。
- 隈事務所
- ・まあ計画次第なんですけど。
- 委員長
- ・後は、少し使用上の融通の中で。
- 隈事務所
- ・ミュージアムのサントリーがそうですけど、出たところに常設の売り場があって、常設の売り場でサントリー商品を買っている。

- 委員長
- ・最後出口出ますけど、物販があるという。その辺は館の受付の係の人がご案内するっていうお話じゃないですか。
- D委員
- ・今、芝生材の火器の使用はどうなっていますか。
- 事務局
- ・芝生での火の取り扱いは多分無理ですね。
- 委員長
- ・バーベキュー。
- D委員
- ・いやバーベキューではなくて、出店っぽいものを作るときに、そこで火を扱うだとか。
- 委員長
- ・そのぐらいいいんじゃないですか。屋台もつくれるようにしてあげてください。でもお休みのときとかにね、町の人がお弁当持ったり。
- 事務局
- ・キッチンカーなんかは。
- 委員長
- ・もちろんもちろん。
- 事務局
- ・十分いいかもしれないですね。
- 委員長
- ・改めての委員の方々からご意見等ございませんか。
 - ・では各委員の皆さん方は、今日のプレゼンを踏まえて、何かご意見、それからまたご質問等々は、事務局にお寄せいただくなり、次回の委員会に直接お越しいただくなりして、そこでの内容を踏まえて、委員会としての基本設計案に対する答申をまとめさせていただけたらと思っております。閉会の前に本当に、それぞれ展示、それから建築、それらを含めて、その間、基本構想、計画を踏まえて、事務局の方とのご折衝も本当に大変でらっしゃったと思うんですけど、非常に実りのある、また夢の持てる、それでいてそれぞれの計画構想を踏まえた、この間の議論を十分反映していただいた基本設計にさせていただけたことを、まずお礼を申し上げてそしてこの間のご尽力されてらっしゃったと思いますが、ご苦労さまでしたとの感謝の思い伝えて、ということで委員の皆さんよ

ろしいでしょうか。ありがとうございました。引き続きよろしくをお願いします。

事務局

- ・皆様からのご意見は実施設計等で反映させていただきますので、できましたら、今週中ぐらいにですね、何かその資料からご質問だったり、ご提案だったりいただけたら、ありがたいかなというふうに思います。

委員長

- ・それも含めて、本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。むしろ、こんなに予算をちゃんと絞って、いろんな意味でご検討いただいたのはありがたいなと思っております。では、本日はこれにて散会ということにさせていただけたらと思いますが、どうぞ各委員の方々に关しましては、あのどんな細かなことでも結構ですので、むしろ思いつきでも細かなご意見、それからご質問含めて、ぜひそれぞれお寄せください。本日はこれまでにいたします。お疲れ様でした。ありがとうございます。